

2021 年度事業計画

茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会

1. 活動方針

茅ヶ崎公園自然生態園(以下、自然生態園)は、かつて四季折々豊かな恵みを人々にもたらし、地域の文化を育んできた里山の貴重な自然を残すために、港北ニュータウンの街づくりで整備されました。

谷戸の源流が残り、湧水が田や池を潤し、生きものを育てています。谷戸を囲む丘には雑木林と竹林があります。このように、自然生態園は、横浜という大都市にありながら、貴重な里山の景観と環境を残しています。この自然は長い歴史に積み重ねられた先人と、地域の方々の生活に根ざした努力、そして多くの市民の自然への思いによって守られてきました。



この自然生態園には、自然体験施設として次の3つの役割があります。

- ① 地域の自然と四季を体感できる公園運営
- ② 里山文化を実体験できる場
- ③ 地域の自然を慈しむ心を育み、自然の保全・再生活動に参加するきっかけとなる場

これらの役割を果たすために、次の3つを活動の基本方針とします。

□自然の再生 : 里山としての豊かな自然環境の再生に取り組みます。

□環境教育:地域の自然と里山文化を子どもたちが体感しながら学べる場を提供します。

□適切な管理 : 気持ちよく自然を感じ、安心して利用できる公園管理をおこないます。

上記の基本方針のもと、地域の方々に親しまれ、地域と共に発展していく運営を目指します。

2. 活動内容

上記の活動方針を達成するために、下記のような活動を行います。

ただし、新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて縮小しての実施・開催や中止とする場合がございます。実施・開催する際は、作業従事者やイベント参加者に対して健康チェックを行い、感染拡大防止のための配慮を求めたうえで従事・参加していただきます。

【施設管理事業】

自然に配慮し、植生豊かな公園づくりを目標に、スタッフによる低木の伐採や、ボランティアと共に行う草刈り・伐採枝の運搬等を行います(p. 4)。また、伐採した材を利用したいけのほだぎ作りや、山から集めた落ち葉を利用した堆肥づくり等、資源を循環させ有効利用を図ります。竹林の整備も行い、後述の工作体験の催しで利用し、副産物として採れたタケノコの提供を行います。

【自然再生事業】

植生管理のために、最近出現した種、生育場所に変化が見られる種、生存が危ぶまれる種、個体数の増減が目立つ種、外来種や移入種等の調査を行います(p. 4)。調査・観察により保護、もしくは駆除等を優先的に行う必要があるエリアを選定し、保全作業を行います。また、在来の水生生物の安定した生息環境維持のため、外来種駆除など積極的な保全活動を行います(一部、専門知識を要する業務は教育委員会からの委託業務として行います)。

【田んぼづくり事業】

田んぼの育む生きものと里山景観を保全していきます(p. 4)。

化学肥料や農薬を使用しない、生態系に配慮した田んぼの維持管理を行います。



【自然環境教育事業】

「生態園」の名にふさわしく、植物、昆虫、水生生物など、自然の観察の催しを充実させます(p. 5)。参加者に、自然の中でありのままの生態を観察してもらうことで、対象の生きものと里山環境の両方に親しみを持てるようにします。また、正しい情報を提供することを心がけます。題材によって対象年齢が異なるので、催しごとに参加者が興味を持ちやすい内容、説明、雰囲気づくりを工夫します。竹工作のような自然物からものをつくることの楽しさを感じてもらえる体験の催しも提供します。また、未就学児を対象とした、簡単な遊戯を通じて自然に興味を持ってもらう催しや、大人を対象とした草木染体験も実施します。下記は今年度開催予定の主な催しです。

小学生向けのイベント

・昆虫探偵団(年間)

年間連続ものの昆虫観察イベントです。季節ごとに現れる昆虫を目で探し、捕虫網や時には罟を仕掛けて採集し、観察して放します。子どもたちが純粋に昆虫に触れて楽しむことを大事にしています。

*2019年度は年間登録制として開催しましたが、2021年度各回で都度参加者の募集を行います。



・クモの観察会(4月)

園内でクモの搜索、観察を行い、多様な形態・生態のクモがいることを学びます。苦手意識を持たれることが多い生きものにも興味を持ってもつきかけとなる観察会です。

・両生爬虫類の観察会(5月)

両生爬虫類について、園内で見られるものと、講師が持参した園内にはいないものを観察・比較することで、園内が両生爬虫類にとってどのような環境かを学びます。

・ヤゴ救出大作戦(6月)

水抜き前の茅ヶ崎公園のプールで、トンボのヤゴを網で掬い出し、園内に避難させます。観察、種の同定方法も教わり、採集と観察の両方を楽しめます。



・昆虫標本づくり(8月)

園内で昆虫を採集し、昆虫標本を作製します。生きものの命を奪いながらも標本を作製する意義について、子どもたちに理解してもらいながら、生きものを学術的に調べる手法を体験してもらいます。

・ザリガニ釣りとお観察会(8月)

アメリカザリガニの生態や形態について、実際に釣って捕まえたり、触れたりしながら学びます。毎年夏に開催しておりますが、講師は水辺保全作業に従事する大学生スタッフが代々担当し、改善を加えながら、子どもたちが楽しんで学ぶことができるように心掛けております。



・クリスマス飾りを作ろう(11月)

2020年度に試行として小規模に開催しましたが、2021年度はイベントとして開催します。園内の枝や実等、自然物を利用して飾り物を作成します。既成概念に捉われずに、自由な視点で材料探しから作成までを行うことで、楽しみながら自然物に対する興味を育ててもらいます。



・竹工作(11月)

竹を伐り出し、コップ等を作ります。ノコギリや工作道具の扱い方は勿論、自然物から物を作る楽しさや竹林管理の重要性について知ってもらうことも心掛けております。

・のこぎり体験&ズーラシアへGO!(3月)

のこぎりの使い方を教わって低木伐りを体験し、「よこはま動物園ズーラシア」に動物に与える様子を見学します。のこぎりの使い方を学べるだけでなく、自分たちが伐った木を動物が食べる様子を見られるため、毎年満足度の高いイベントとなっております。

おとな向けのイベント

・野の花ウォッチング(年間)

4~11月の毎月1回(8月を除く)、生態園に自生する野の花や実を散策しながら観察します。大人向けですが、植物の生態についての奥深さについて知ることができる内容となっております。



・草木染め(10月)

2020年度に試行として小規模に開催しましたが、2021年度はイベントとして開催します。自然物から「色」を得る体験をしてもらうのと同時に、材料となる自然物に関するクイズ等も織り交ぜることにより、自然物そのものに対する理解も深めてもらいます。



未就学児向けのイベント

・親子自然遊び「たき火を楽しもう」(2月)

未就学児親子を対象に、たき火での焼き芋体験と、野山の散策を通じた自然観察を行います。未就学児の視線に合わせて、自然への親しみ・関心を育んでもらうことを心掛けております。



【自然の普及啓発事業】

ホームページやSNS、区内小学校や公共施設へのチラシの配布や地域情報誌への執筆等を通じて、里山自然の魅力や旬の情報をあらゆる年齢層に伝えます。

2021年度 維持管理作業計画

下線=共同作業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
定例保全	林:低木・ササ刈り 竹林:整備	林:ササ刈り 竹林:整備	林:低木・ササ刈り カエル池～溜り:草刈り	林:園路:草刈り、ササ刈り		林:園路:草刈、ササ刈り カエル池:ザリガニ駆除
米作り	苗床づくり	田起こし・しろかき ザリガニ駆除	苗とり・田植え 苗なおし	田の草とり・畦の草刈り 水管理	田の草とり・畔の草刈り 水管理	かかし作り 水抜き 畔の草刈り
水辺保全	アシ刈り ザリガニ駆除・生物モニタリング・草とササ刈り					
ほか	移入草・スギナとり 筍保護・採集 スズメバチ女王駆除 ほだぎ仮伏せ・水やり	移入草・スギナとり 筍保護・採集 枯枝点検 ほだぎ仮伏せ・水やり	草・ササ刈り ほだぎ本伏せ	草・ササ刈り	草・ササ刈り	草・ササ刈り
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例保全	林:間伐	林:間伐 林:ササ刈り	林:ササ刈り・落葉かき 竹林:間伐	林:ササ刈り・間伐 林:落葉かき	ほだ木作り 林:ササ刈り・間伐	林:ササ刈り
米作り	稲刈り ザリガニ駆除	脱穀 もみすり・精米			水入れ	施肥
水辺保全	カイボリ アシ刈り アシ・枯草刈り 泥さらい 落葉・泥さらい カエル保護 ザリガニ駆除・生物モニタリング・草とササ刈り					
ほか	林:間伐 ほだぎ水やり	林:間伐 ほだぎ水やり	谷戸周辺:枯草刈り 落枝整理 落葉かき ほだぎ水やり	谷戸周辺:枯草刈り 落枝整理	落枝整理 園内整理 ほだぎ仮伏せ・水やり	園内整理・オギ刈り 簡易柵修繕設置 ほだぎ仮伏せ・水やり
随時	植物・生物の保護、ササ刈り、移入種除去、チップー作業、自然材料の循環利用(伐採木、落葉・刈り草・駆除移入種)、ワーキンググループ開催					
指定管理 業務	施設管理 (トイレ含む)	園路広場/清掃 給排水施設/点検・管柵清掃 工作物/点検・臨時処理 谷戸田/畦、水門修繕・点検清掃 池・流れ/水面清掃・堆積土除去・水路清掃 1. 日常清掃 2. 日常点検・基礎/ひび割れ・水漏れ・劣化 ・外壁/破損・腐食・汚れ・キズ・落書き 軒回り/破損・腐食 屋根/劣化・欠損 雨樋/詰まり有無 3. 設備点検 ・電灯・給水・空調・消防				
	植物管理	1. 雑木林/草刈り・枯木枝除去・剪定・間伐 2. 竹林/間伐・枯木倒木除去 3. 常緑樹林・混交林/枯木・倒木・枯枝除去 4. 草地・湿地/草刈り・浚渫 5. 池・流れ/草刈り・浚渫 6. 水田/稲作作業・畦草刈り・畦管理				
	トイレ管理	点検・清掃 床・便器・手洗い器・棚の清掃、鏡・扉・壁・天井等の清掃、ゴミ・汚物処理、トイレトイレットペーパーの補充、軽易な詰まりの復旧、電灯・鍵等設備の確認 「維持管理基本水準書」に拠る				
委託業務	水生生物 生息環境 保全	1. 日常管理/池の巡視確認・状態確認・浮遊物除去・周辺清掃、堆積泥・落葉除去、周辺の草刈り・樹木伐採、水生生物生息調査・外来種駆除、 違法捕獲等の監視と通告 2. 簡易水質調査、気温・水温調査、水位湧水量の調査、調査協力 3. 水生生物調査(成魚生存・稚魚浮出・二枚貝生存) 4. 啓発 5. ほか生息環境維持 6. 工程表作成				

◎新型コロナ感染拡大防止のため計画通りの遂行ができない可能性があります。

2021年度 自然生態園 事業計画

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
自然再生	保全作業	<17, 25> 雑木林整備	<15, 23> 雑木林整備	<19, 27> 雑木林整備	<17, 25> 雑木林整備		<18, 26> 雑木林整備 ザリガニ駆除	<16, 24> 雑木林整備	<20, 28> 雑木林整備	<18, 26> 雑木林整備 竹林間伐	<15, 23> 雑木林整備	<19, 27> 雑木林整備 ほだぎ作り	<19> 雑木林整備	
	平日草刈り	<1>	<6>	<3>	<1>		<2>	<7>	<4>	<2>	<6>	<3>	<3>	
	調査	1. 植生調査<毎月4回～> 2. 鳥類調査<随時> 3. 昆虫調査<随時> 4. 水生生物調査(毎月4回～) かいぼり(11月)												
	WG	保全管理計画、水辺維持管理具体方針の検討 <随時>												
	ザリガニマスター		5～10月、第1・3日曜											
米づくり	昔ながらの米づくり	<25> * 苗床づくり		<4> * 苗取り	<24> 草取り	* 草取り	<11> かかしづくり	<2・3> 稲刈り	<6> 脱穀				<4> * 堆肥入れ	
			<8> * 畦塗り	<5・6> 田植え					<13～> * * もみすり 精米					
			<29> 田起こし しろかき									< * リポーター作業> < * * スタッフ作業>		
自然環境教育	観察会	昆虫探偵団		<26> ①バイトラップ	<31> ②バナトラップ	<28> ③セミの抜け殻					<8> ④冬越しする生きもの			
		植物	<3> 野の花-春	<1> -春2	<5> -初夏	<3> -夏		<25> -初秋	<23> -秋	<27> -秋2			<> シュンラン	
		その他	<24> クモ		<12> ヤゴ	<22> 昆虫標本	<7> ザリガニ							
	試行		<3> 両生爬虫類											
	調査	<~20> ハチトラップ									<29> 鳥	<16> 竹とたき火		
体験	小学生向け								<21>クリスマス飾り <23>竹工作				<12> のこぎり体験	
	未就学児向け							<13> ネイチャーゲーム秋		<22> ネイチャーゲーム冬	<4> 親子自然(たき火)	<23> ネイチャーゲーム初春		
	おとな向け						<14> 草木染め							
	ネイチャークラブ	<第3土曜>												
広報	生態園だより		生態園だより 春		生態園だより 夏			生態園だより 秋			生態園だより 冬			
	ニュースレター	<毎月>												

2021年度 収支計画書

2021年4月1日～2022年3月31日まで

(単位：円)

科 目	横浜市指定管理事業	一般会計	合計	
I 経常収益				
横浜市指定管理費	10,156,300			<消費税込み> *個人からの寄付金・寄付金箱、園内整備で出た自然物などへのお気持ち(協力金)、催し参加への協力金(実費以外)
受取寄付金・受取運営協力金		280,581		
自動販売機 会費		36,000 78,000		
経常収益計	10,156,300	394,581	10,550,881	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
①施設管理人件費	1,391,155			
②自然再生人件費	1,112,556			
③田んぼ人件費	903,578			
④環境教育人件費	752,025			
⑤自然の普及人件費	845,540			
事業管理 人件費	1,397,671			
法定福利費	366,665			
福利厚生費	150,000			
人件費計	6,919,190		6,919,190	
(2) 事業費				
①施設管理	781,320			*トイレ施設管理委託 257,190
②自然再生	227,780			
③田んぼ	62,050			
④環境教育	91,349			
⑤自然の普及	98,259			
一般会計(支出1)		308,713		
事業費計	1,260,758	308,713	1,569,471	
(3) 事業管理費 ほか				
通信費	136,950			
事務諸費・消耗品・研修費	117,566			
会議費・来客等	8,333			
旅費・市内交通費	33,333			
事業管理費 ほか計	296,182		296,182	
事業費計	8,476,130	308,713	8,784,843	
2. 管理費				
(1) 人件費				
管理人件費	571,737			
法定福利費	73,335			
福利厚生費	30,000			
人件費計	675,072		675,072	
(2) その他経費				
通信費	13,450			
事務諸費・消耗品・研修費	42,014			
会議費・来客等	11,667			
旅費・市内交通費	6,667			
役員(交通費・通信費補填)	8,000			
租税公課	923,300			
一般会計(支出2)		85,868		
その他経費計	1,005,098	85,868	1,090,966	
管理費計	1,680,170	85,868	1,766,038	
経常費用計	10,156,300	394,581	10,550,881	
当期正味財産増減額	0	0	0	